

特集

学問としての 在宅看護論の確立へ

【鼎談】学問としての在宅看護の歴史と未来
地域の特色を生かした在宅看護実習の紹介

本田彰子／炭谷靖子／栗本一美

荒木晴美

「地域社会に役立つ看護師」の育成をめざした教育実践を振り返る

長江弘子

在宅看護“現場学”への招待——OJTシートによる現任教育への誘い

本田彰子

『在宅ケアのつながる力・不思議な力』に導かれて

秋山正子

『開業ナース』として教育・研究・実践のいずれにも邁進する

村松静子

【連載】

「魅力ある学校をアピールする！」プロジェクト・2 諸橋由美子

看護学教育評価演習・3(最終回) 菊山裕美

「書く力」でステキな看護師をつくろう・6 三原祥子

九州・沖縄からの風 学生が綴る看護への想い・9 松坂初美

実習の経験知 育ちの支援で師は育つ・13 新納美美

ナイチンゲール伝・15 茨木 保

Mail From USA ——『JNE』を読み、世界の看護教育の流れを知る・41

神谷英美子

編集後記

◎編集室ツイッター <http://twitter.com/KANGOKYOIKU>

●弊誌では昨年から「教務主任養成講習会」に関する記事をさまざまな形で掲載してきました。昨年の福岡県に続いて、今年は東京慈恵会が新たに講習会を開催していますが、関係者のどなたに何んでも、閉鎖された厚生労働省看護研修センターが果たしてきた役割の重要性を、改めて感じざるを得ません。センターがあったからこそ、教育の専門家ではない看護教員が「教員」として成長できたのだと。●教務主任といえは、直接学生の教育にあたるばかりでなく、一般教員の教育や学校の経営管理にも携わる立場。大学でいけば教授クラスの役割が期待されるベテラン教員が、学生にもどって改めて「教育」について学ぶ機会が得られるというのは、本当にすばらしいことです。大学にはないこの制度を多くの方が利用して、より充実した教育を実践していただければと願っています。……大野

●「学生」「論文」とくると、まず卒業論文に思い至ります。当時からなかなか研究がうまくいかず苦しんでいた私に、指導教官はこんな言葉をかけてくださいました。「卒業論文というのはね、自分ひとりの力では何もできないと気づくために書くんだよ」。●能力がないから、努力が足りないから、と自分を責めるしかなかった私がこの一言にどれだけ救われたか。先生方をはじめ研究室の皆に助けられ、出会いに感謝し、ようやく論文を書き上げようという徹夜明けの提出期限日の朝、謝辞を書きながら涙が溢れ出てきたのを思い出します。●今年で10回目を迎えた看護学生論文にも、多くの学生が苦悩し自問自答する姿と、それと同じ数の素晴らしい出会いがありました。経験したことを学生自らが整理し、自身の内面を見つめ、より深い学びにする。少しでも小誌がそのお役に立てていれば嬉しいです。……加藤

看護教育 第53巻 第8号 2012年8月25日発行(毎月1回25日発行)

Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo © 2012, Printed in Japan

1部定価2,205円(本体2,100円+税5%) 2012年・年ぎめ予約購読料(増大号を含む12冊)

冊子のみ16,250円、冊子+電子版(個人)19,250円、冊子+電子版(共有)21,700円、電子版/個人16,250円、

電子版/共有18,800円(いずれも税込、送料弊社負担)

発行者:株式会社医学書院 代表者:金原 優 〒113-8719 東京都文京区本郷1-28-23 販売部 TEL: 03-3817-5659

『看護教育』編集室 TEL: 03-3817-5776 メールアドレス: kankyou@igaku-shoin.co.jp 担当: 加藤・大野・早田

本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)医学書院が保有します。

本誌を無断で複製する行為(複写、スキャン、デジタルデータ化など)は、「私的使用のための複製」など著作権法上の限られた例外を除き禁じられています。大学、病院、診療所、企業などにおいて、業務上使用する目的(診療、研究活動を含む)で上記の行為を行うことは、その使用範囲が内部的であっても、私的使用には該当せず、違法です。また私的使用に該当する場合であっても、代行業者等の第三者に依頼して上記の行為を行うことは違法となります。

JCOPY (社)出版者著作権管理機構委託出版物

本誌の無断複写は著作権法上の例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に、(社)出版者著作権管理機構(電話03-3513-6969, FAX 03-3513-6979, info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。0047-1895/12/¥250/論文/JCOPYが本誌の頁表記に並んで記されているのは、1論文1回複写につき250円を要することを明示したものです。表示のない論文などにも適用されます。JCOPY宛にご連絡いただく際には、筆頭著者名・論文名と併せて本表示をご提示くださるようお願いいたします。

Vol.53 No.7

2012年7月
特集

学校をアピールする！ 学生確保のためにできること

少子高齢化にともない、若年層の減少がすでに始まっています。このため、一般の専門学校や大学では学生確保のため、さまざまな形でのアピール活動を行っています。看護専門学校においては、資格取得を目指す社会人経験者の入学増加もあり、他分野に比べれば、まだ学生不足が目立つという状況ではありません。ただ、大学が200校を超えたいま、各校とも学生確保に向けての一層の工夫と努力が求められます。もちろん、その大学も広報活動には力を注ぐ必要があるのは、言うまでもありません。「学生募集対策は経営者が考えること」ではありますが、経営管理の視点は一般教員であっても必要です。今回の特集は、さまざまな試みを紹介することにより、これからますます厳しくなるであろう学生確保のための広報活動について、それぞれの教員が考えるきっかけとしていただきたいと思います。

contents

- 学校の魅力をアピールするためのさまざまな方策……………雑賀美智子
- 専門学校におけるオープンキャンパスの重要性……………伊藤茂理／仁科智子
- 課程変更に向けて、改めて教員による広報活動を考える……………奈良育代／大池明枝
- 准看護師から看護師を目指す看護通信課程での広報活動……………鈴木邦子
- 大学急増時代の看護系大学の広報と情報公開……………濱名 篤
- 今高校生たちは何を考え、看護の道へ進もうとしているのか……………田口正男
- コンサルタントから見た看護専門学校のアピール法……………北里 淳



Vol.53 No.6

2012年6月
特集

地域看護学と公衆衛生看護学 Part2

保健師学生が学ぶ公衆衛生看護学再考

先月からの連続特集「地域看護学と公衆衛生看護学」、後半となる今回は、保健師教育の側面からアプローチしてみたいと思います。保健師助産師看護師法および養成所指定規則が改正されたことで、広義の看護教育のなかでの保健師教育の位置づけを明確にし、独自の教育として充実させる時期にきたと言えるでしょう。それぞれの養成機関における保健師教育の現状と課題、そして制度の改正により保健師教育は今後どう変わっていくのか。実際の保健師の活動、求められている能力から見て、今までの教育内容では何が足りなくて、これからは何を重視していくべきか。お互いの専門性を認め合いながら看護師と協働できるようになるための基礎教育のあり方とは。今回はこれらの問題を考えるべく、保健師の教育・活動に携わるさまざまな立場からの意見をご紹介します。保健師教育を取り巻く状況を整理することで、社会の要請に的確に応えられる保健師の養成に役立てるとともに、看護学生と保健師学生のそれぞれにとって望ましい教育につなげていただくことを期待します。

contents

- 保健師学生が学ぶ公衆衛生看護学とは……………佐伯和子
- 保健師と共に実践する行政地域看護CNS活動……………持田恵理
- 大学院修士課程における保健師教育の開始……………江藤真紀・草間朋子
- 保健師学生のための保健師教育
北里大学保健衛生専門学院保健看護科の
実践例紹介……………佐藤雅子
- 産業保健・学校保健に必要な教育内容……………荒木田美香子



【2012年5月号 (Vol.53 No.5)】

地域看護学と公衆衛生看護学 Part1
看護学生が学ぶ地域看護学再考

【2012年2月号 (Vol.53 No.2)】

私はこうして学生と向き合っ
てきた 日々出会うさまざまな悩み

【2012年4月号 (Vol.53 No.4)】

平成23年度教務主任養成
講習会を振り返る

【2012年1月号 (Vol.53 No.1)】

看護教育の現場にプレゼン
テーション力を活かす！

【2012年3月号 (Vol.53 No.3)】

災害看護教育に生きたシミュ
レーションを 震災に焦点をあてて

【2011年12月号 (Vol.52 No.12)】

今、学生と共にいのちを考
える

バックナンバーのご注文・在庫照会について

- 2010年6月号(Vol. 51, No.6)以前の号は、東亜ブック(TEL.03-3985-4701, FAX 03-3985-4703, http://www.toabook.com/) にお問い合わせください。
- 2010年7月号(Vol. 51, No.7)以降の号は、医学書院販売部(TEL.03-3817-5659)にお問い合わせください。